

豆知識 ウオッカ談義1

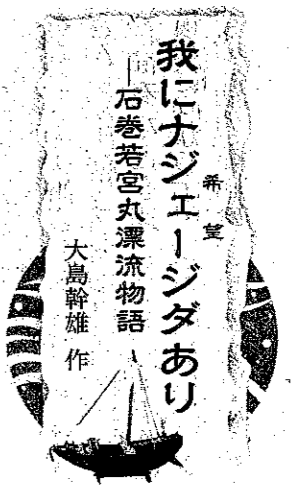
ロシアの酒といえば、ウオッカ。ソ連時代から私は何十回とロシアには行っていますが、心してかからないといけなかったのが、このウオッカの洗札でした。昼間だろうが関係なく、いつのまにかにテーブルが用意され、ザクースカ(前菜)と一緒にウオッカの瓶が並んで、そして「ナ・スタローピエ」(健康のため)と、冷たいウオッカが注がれたグラスをカチンといわせて、一気に飲む、これをくり返すのです。ある時初めてこのウオッカの洗札を受けた日本人が「昼間からウオッカ飲んで、なにが健康のためだ」と吐き捨てるように言っていました。それは日本の常識であつて、ロシアでは通用しません。大事なのは飲んだあと、ザクースカをすぐに食べることで、これを食べないと、すぐにひっくりかえってしまいます。四〇度の強い酒ですので、高タンパクのものを胃にいれておかないと、このあと何回続くかわからない乾杯の一気飲みについていけなくなります。

石巻 新 聞

(第3種郵便物認可)

(3) 2012年(平成24年)10月17日 水曜日

私は石巻生まれ、東北の人間ですから、酒は強いほうです。ただ最初にこのウオッカを飲んだときは乾杯三度目くらいでダウンしてしまいました。酒の上での失敗も教えきれません。ただロシア人はこうした失敗に実に優しいというか、失敗するとなにか「お前も俺たちの仲間」みたいに親しげになってきます。自分たちも同じようにたくさん失敗しているからなのでしょう。こうして私は何度も失敗を繰り返しながら、だいぶ強くなりました。一度中国人が主催したパーティーにロシア人と一緒に出席したときの話です。円卓に八人くらいが座り、中国のウオッカ白酒(バイチュウ)で順番に乾杯していくのですが、すでに私の番にくるまで七回乾杯をしているにもかかわらず、私の番になったとき、中国人がお猪口ではなくどんぶりのようなでかいグラスに、なみなみと白酒をついではないですか。ロシア人たちは目で、やめろと合図したのですが、酒飲むくらいしか芸がない、このどんぶりはやめてやろと、一気に飲み干してやりました。ロシア人たちが中国人の方を見て、「どうだといわんばかりの顔をしていたのをいまでも覚えています。」



豆知識 続・ウオッカ談義

今日は、私がいままで六〇年ほど生きていて、一番美味しかった酒の話です。それはウクライナのキエフで飲んだウオッカのどぶろく(サマゴン)。
いまから二〇年以上前のことです。当時は男の更年期障害ではないかと思われるくらい、体調がおもわしくなく、酒もそんなに飲めなくなっていました。その時にウクライナに行く用事ができました。今回だけはウオッカには気をつけようと肝に命じての出張です。強行スケジュールだったのですが、なんとか体調ももって、帰る二日前に仕事もめどがついたので、あるマシジャンの誘いに応じ、彼の別荘(ターチャ)で馳走になりました。本場のボルシチなど美味しい料理の数々で、ウオッカも美味しく飲みました。当時はタバコを吸っていたので、タバコを吸いたいというマシジャンが、じゃあガレーシに行こうということになりました。そこにあったのです。あのドブロクが…
牛乳を入れる大きなタンクのような容器から杓子で掬ってグラスに入れてもらいます。これがどぶろくの状態で、たとえば透明な濁りの酒のような感じです。電気もなく、暖房もない、二月のキエフ郊外の地下室、コートを着ながら、みんなでグラスをかちんと合わせ、口に入れると、これがなんともまろやか、いままでウオッカでは感じたことのない、甘さが口の中に広がるではないですか。一口飲んだだけで、「美味い」という言葉がすぐにでてきました。それから何度あのガレーシに通ったことか。その前にも相当ウオッカを飲んでいたにもかかわらず、このサマゴンをとれただけ飲んだのでしょうか。酔ってはいるのですが、まろやかな酔いなのです。これだけ幸福な時間をすごしたことはありませんでした。いまでもこの時のことをよだれをたらしながらロシア人に話すもんですから、みんな自家製のサマゴンをお土産で持ってくるのですが、あの時のサマゴンに勝てるものはありませんでした。

石巻 新 聞

(第3種郵便物認可)

(3) 2012年(平成24年)10月18日 木曜日

この出張から戻って、私の体調はよくなり、いつものようにまた酒を美味しく飲むようになりました。サマゴンが薬になったのではとひそかに思っています。